



「ホスピタルアートのある街」 堺のブランド力向上と 堺市民の健康意識向上への貢献



DATA

■主な連携先・メンバー

社会医療法人同仁会 耳原総合病院院長 奥村伸二氏/耳原総合病院アートディレクター 室野愛子氏/耳原総合病院事務局 柴田康弘氏/近畿大学 教授 森口ゆたか氏/画家 中島裕司氏/マンチェスター・メトロポリタン大学 アート・フォー・ヘルス(Art for Health)代表 クライブ・パーキンソン(Clive Parkinson)氏/マンチェスター ライム・アート・プログラム(Lime)代表 ドーン・プレスコット(Dawn Prescott)氏

■活動地域

大阪府堺市/関西大学堺キャンパス・梅田キャンパス・千里山キャンパス・高槻ミューズキャンパス・東京センター

■活動期間

2018年度～継続中

■活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業



活動の目的

日本屈指の「ホスピタルアート」を実現している耳原総合病院が堺市に存在していることを、堺市のブランド力向上、堺市民の癒しと健康増進に結びつけること

連携にいたる経緯

ホスピタルアートの取組みが日本で最も進んでいる、堺市にある耳原総合病院・院長の奥村伸二院長のご子息が本学社会安全学部の学生で、同学部亀井教授の授業の教科書「経営学とリスクマネジメントを学ぶ」を奥村院長が自宅で偶然目にした。「リスクマネジメントには感性が重要」という主張に共感されたことがきっかけで、同病院から異業種の講師による研修の依頼を亀井教授が受けることとなった。これがきっかけとなりホスピタルアートに関わるさまざまな人とのつながりを得て、本プロジェクトを実現することとなった。

活動内容

初年度の2018年度は、講演会の実施および耳原総合病院がホスピタルアート導入に際してモデルにした英国への視察を行った。(チェルシー・ウェストミンスター病院/ロイヤル・カレッジ・オブ・アート)2019年度は英国に加えフランスも視察。(チェルシー・ウェストミンスター病院/マンチェスター王立眼科・子ども病院/ Lime プリンティング・スタジオ/ロイヤル・カレッジ・オブ・アート/パリ大学サン・ルイ病院/サン・タンヌ病院)最終年度である2020年度はフランス事情も考察する。

2018年度

【第1回講演会】

内容：「堺市・耳原総合病院におけるホスピタルアートの取り組み—いかにホスピタルアートの導入を決断し実現してきたか」

【第2回講演会】

内容：「英国チェルシー・ウェストミンスター病院におけるホスピタルアート最新現地調査より」「療養環境におけるアートとその可能性」

【第3回講演会(昼の部・夕の部2回実施)】

内容：英国マンチェスター・メトロポリタン大学クライブ・パーキンソンClive Parkinson氏の講演と討論 耳原総合病院のホスピタルアート見学会

2019年度

【報告会】

テーマ：「英国王立マンチェスター眼科・子ども病院におけるホスピタルアートとLimeの活動」

【ワークショップ参加】

マンチェスター Limeアニメーション・ワークショップ、ロンドンArt4Minds身体表現ワークショップ

活動の成果

- 1 ホスピタルアートに関わる国内の研究者、英国の研究者と研究機関との連携を築いた
- 2 堺市関係者、堺市民にホスピタルアートとは何かについて、一定の情報提供を行うことができた
- 3 研究成果出版物(「なぜホスピタルアートを導入したのか『ホスピタルアートのある街・堺』耳原総合病院・奥村伸二院長 講演録」他)を刊行した

今後の課題・目標

- 1 講演会や研究成果の刊行を通じて「ホスピタルアート」についての認知度向上をはかる
- 2 「ホスピタルアートの街」としての堺のブランド力向上につなげる
- 3 堺市民の健康意識向上にどのようにしてつなげていくかを検討する

教員紹介



■社会安全学部 教授

亀井 克之
Katsuyuki Kamei

専門はリスクマネジメント論。
2019年著作：
Risk Management -Basic Theory and Case-, Kansai University Press.
2020年著作：
『続・市民マラソンがスポーツ文化を変えた』(共著、関西大学出版部)



■化学生命工学部 教授

上田 正人
Masato Ueda

専門は材料物性。セラミック半導体の光応答を利用した細胞プリンターの開発、骨再生メカニズムを利用したサンゴ礁の再生、電気抵抗率の超精密測定による格子欠陥の検出に関するプロジェクトを進めている。AYA世代病棟とフィールド(スポーツ)を繋げるホスピタルフットボールの活動にも参加している。